日本大学 桜樹会会報

第 14 号

昭和52年 5 月

日 本 大 学 桜 樹 会

目　　次

大きな曲り角……浜田靖一……2
富士登山……門脇春男……4
心技一体について……遠藤幸雄……6
日本女子体操界の低迷に思う……今村　悟……7
競技会成績……12
アメリカ遠征について……15
昭和50年度　会員総会議事録……16
昭和50・51年度　事業及び行事報告……17
懇親会報告……18
ゴルフコンペ成績……20
昭和51年度　決算報告……23
昭和52年度　桜樹会役員……24
昭和52年度　体操部役員……24
昭和52年度　体操部新入部員……25
会費領収について……総務……25
会員名簿訂正・追加……30
西ドイツのスポーツ(1)……今村　悟……33
ヨーロッパの会員のことなど……菊地君男……38
編集後記……44

大きな曲り角

――女子体操競技のあり方――

部長　浜　田　靖　一

どんなスポーツでも時代の変遷や器具器材の発達改良によって競技内容や記録，技術などが大幅に進歩することはそう珍らしいことではない。陸上競技のタータン・トラックや棒高跳のポールなどがよくその例に引かれるところである。体操競技も勿論その例外ではない。

しかし私がこゝで論ずるのは，そうした競技の媒体のことではなく，もっと女子競技の性格的な本質的な問題なのである。

こゝまで書いてくると専門家の諸者諸兄姉はすぐにハハーンと感ずかれたに違いない。

そうです，その問題なのです。現在の国際競技（国内でもその傾向は強いが）で女子の体操競技が12，3才で体重30キロぐらいのジュニア競技会になってしまったことである。

いゝかえれば女性の，少くとも女性的な競技会ではなくなってしまったことである。

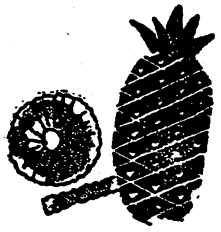
このようないゝ方は若干問題があろうが，内容はまさにその通りなのである。即ち第二次性徴以前の少年的な体でなければ出来ない内容になってしまったのである。もっと具体的にいえば，純真な女性美の発露である豊かな胸や，天職を完うするのにふさわしいアノ女性らしい骨盤があっては邪魔なのである。いや出来ないのである。今度のモスコーのオリンピック大会は先ず間違いなく少女達の独壇場のジュニア大会になるであろう。彼女達の身長は1米30糎か40糎ぐらいで，床に立つと平均台や跳馬からあまり頭が出ないくらいであり，体重はわれわれ男性が片腕で楽にさげられるくらいである。現在この小さなアマゾンのように乳房もなければお尻も小さいスジばった体（所謂ガリ）の少女達が，男子そこのけの難技をやすやすとこなしているのである。おそらく床運動では，男子よりも高度な技をこなしているのではないだろうか。何んのことはない昔の日本の「角兵衛獅子」のようなものである。

幼稚園のころからきたえにきたえるのである。アノ盆栽のような少女達は一体これから身長が伸び，ノーマルな女性として成長し，子供を産むことの出来る母親になれるのだろうか。

もしそうでないとすると，オリンピックや国際的女子の体操競技大会は，奇形児の大会といわれても仕方がないではないか。なる程，第20回のミュンヘンオリンピック大会であのコルブト嬢が痛々しいほど小さく可憐な姿態で，姉さんや母親のような人達をしりめに妙技をくりひろげメダルを獲得した時には，世界中の人々が惜し気のない拍手を送ったものである。またモントリオールの時の，白い妖精といわれたルーマニアのコマネチに対する拍手の内容も大体にているといえよう。ところがこの少女選手の出

現に刺激され，その後雨後の筍子のように少女選手が続出して華麗に可憐に活躍するようになったので，お姉さん選手やお母さん選手は姿を消さざるを得なくなったのである。本年の3月早田コーチが監督で遠征した国際リガ選技大会では，ソ連や東欧の社会主義の諸国家の女子選手はほとんど少女選手によって占められ，それこそアッと驚くサーカス的妙技を披露していたと語ってくれた。例えば，平均台では助走の後一回前方宙返りで台上にのぼったり，台上で横向きに立って逆宙という難技をみせたとのことである。しかしこれは日本の女子選手が国際的に水をあけられたからひがんでいっているわけではない。また少女達の進出で大人達女性に同情したためでもない。男顔まけの女性体操ではなく，女性のための女性らしい体操競技は出来ないものかということである。ミロのヴィーナスのような美しい姿態の女性が活躍できる体操競技は出来ないものだろうかということである。

少くとも年令別や年令制限をするとか，或は演技内容や採点の基準をかえるかして，女性らしい女性の出来る競技にしてほしいと思うのである。いま思えば，チャスラフスカやムラトワの活躍した時代が女性らしい体操競技の最後ではなかろうかと思うのである。



富　士　登　山

副部長　門　脇　春　男

富士山は美しい山である。わが国最高峰（標高3,776m）の均勢のとれたすばらしい山としても知られ，観光日本のシンボルとして世界中の人びとの憧がれの的でもある。

富士は，古くは不二，不尽，布二，富慈などとも書き，また，山頂火口壁の起伏を蓮華にたとえて芙蓉峰とも呼ばれている。

今年も山開きが近づいてきたが，7つある登り口（吉田口，河口湖口，須走口，御殿場口，富士宮口，精進口）からの登山者はピーク時には1日1万人を超え，頂上にかけて人の波である。富士登山はいまや大衆化したレジャーというべきかも知れない。

平安中期（今から約1000年前）に修験僧が祠を山頂に築いた霊山で，江戸時代に入り富士講として信仰の対象となり各登山道口にある浅間神社で身を浄め，お祓いをうけてから山頂に向い，2～3日の日程で登ったと聞く。

しかし，昭和45年に有料道路が五合目まで開通してからはマイカー，バスの乗り入れが可能となり登頂に要する時間も4～5時間に短縮され，だれにでも登れるようになった。

さて，東京生れでない私がこの富士山を目のあたりに見たのは，昭和42年2月富士山麓の吉田市で行った文理学部のスケート実習のときで，以来，いつかはこの美しい山へ挑戦しようと考えていた。それが，2年前の昭和49年7月30日に私の親友の篠竹幹夫君（現，日大アメリカンフットボール部監督）と一緒に登る機会を得た。ひる前に河口湖登山道スバルラインを利用して五合目まで一気に登る。天気はよく，夢にまでに見た山頂が目前とあって最初は軽く口笛などを吹きながら登る。しかし，7合目あたりになると呼吸が苦しく，足もとが軽石状小石のためスリップも多くなりペースががくんと落ちる。太陽はじかに当るものの空気が乾燥しており，汗は余りかかない。8合目をすぎた頃，余談になるが，日頃からタフネスを自慢している篠竹君が弱りはじめる，軽い高山病にかかったらしい。慎重居士，健康マンの彼の困った顔，ゆがんだ顔をみたのはあとにもさきにもはじめてであった。あとで聞いた話だが前夜真鶴の海岸でアクアラングをやり一睡もしないで登山したとのことだった。富士登山を甘く考えていたとしきりに反省していた。これは教訓として一考を要することだと思う。太陽は山の西側にまわり東斜面の登り道は急に寒くなった。頂上の奥宮へ参拝したとき午後7時をすぎ，気温もマイナス5度位となる。日帰りの計画であったが，9合目から頂上にかけてのアクシデントで200m位昇るのに2時間もかかってしまったので急きょ予定変更山小屋へ泊る。夕食は，丼めし，味

味噌汁，つけものだけ，あとはなにもなし。しかし，疲れと空腹のためガツガツ喰べる。清涼飲料水，ビール，チョコレート等は市価の3倍位の値段である。強力（ごうりき）が30キロ位の荷物を背負って上にあげるので手間賃もかかり余分な食糧をおけず，値段が高くなるのはやむを得まい。夕食終了と同時に寝床に入る（実際はドーゾ，ドーゾと強制的に1枚のフトンに2人当寝せられる）。あさ4時，ご来迎（らいごう）だからとこれも強制的に起され，朝食もそこそこに外に出る。東の地平線から昇ってくる太陽を拝む。小1時間ばかり日本一高い富士山頂で昇りつつある太陽と戯れながら下界の景色を眺める。

帰路は早い。須走を一気にかけておりてしまった。

――苦しかったが実に雄大な，晴ればれとした満ちたりた気持のいい旅行であった。――

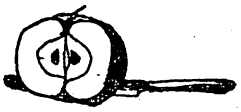
閑　話　休　題

富士山頂をきわめるいという目的のためにどのような計画をたてるか，食事は，服装は，登山計画は，宿泊は……という具合に綿密なプランをたてることは大事なことである。有料道路開通のおかげで簡単に，しかも老若男女を問わず富士登山がたのしめるようになったが，しかしこれも良し悪しで，登山マナーの守れないものや装備不十分，無計画なものが多くなり，事故の発生率の増加，登山道の脇がゴミで一杯のところもある。大衆化するということはいいことなのだが反面いけない面もでてくる。

そこで，日本のスポーツ人口の増加は昭和39年の東京オリンピックを契機としてであり，以来日本の経済の安定，高度成長にともなう時間とお金の余裕もでき急激にスポーツを行なう人が増え，解説書や入門書が市中に出廻り，スポーツは安易に簡単に行なえるようになった。だがだれにでもできるようになったことに注意を促したい。

昭和50年度に幼稚園から高校までの体育授業やクラブ活動中に発生した事故件数は894,900件，死者は247人（学校安全会資料による）となっており10年前にくらべると30万件も増えておることになる。正しい知識，指導，適正な運動量を十分に考慮しなければならない。事故の発生は，初心者の場合もさることながら慣れてきたときに起る件数も多いのである。あと一息このときこそ大切なときではあるまいか。俗に胸突き八丁ということがあるが，苦しいときに計画が十分であったかどうかが問われるときである。最後の詰めを大事にしたいものだ。

52.5.10



心技一体について

監督　遠藤幸雄

昨年1月，元読売ジャイアンツの監督川上哲治氏にお会いする機会を与えられたが，氏は，〝心技一体〟について，「キャッチボールをしている際，ボールを投捕することは技である。自分が捕球しやすい所はどこかを知るならば，相手にも捕球しやすいように配慮して投球することができる。即ち心技の心とは相手の立場を考え，思いやりを持つ心である」と語った。

確かにチームワークを発揮するためには自己中心では達成できないだろう。昨年の男子体操は，モントリオールで傷だらけの，しかも見事な逆転優勝を果したが，世間の人々はそれを，チームワークの勝利と評した。体操競技はチーム総合という国名を賭した勝負ではあるが，本質的には個人競技である。

それでは，体操競技とチームワークとの接点をどこに求めたらいいのだろうか。今回のモントリオール大会で，新旧の調和もよく，一致団結してすばらしい競技展開をした選手たちも，最終予選では代表権を賭けて熾烈な順位争いをしたライバル同志だったわけであるから，彼等がその予選会で，相手の成功を思う心の余裕といったものがあったかどうか極めて疑問ではある。

しかし，国名を賭けたオリンピックの場ではチーム優勝という悲願達成のために仲間の成功を心から願ったに違いない。それは恐らく〝祈り〟ともいえる心境だったと思われる。

従って，体操競技における心技一体，即ちチームワークとは〝祈る心〟と考えたいのだが…。

日本女子体操界の低迷に思う

今　村　　悟（第9回卒・西独在住）

西独女子チームがモントリオール大会で日本に初めて勝ったことを報道している体操雑誌を読みながら，日本女子チームのオリンピック惨敗は何が原因なのかを考えてみた。

私は技術的ミスよりも，もっと他に深い問題があるように思われ，この問題を全く違った角度からヨーロッパの体操界と比較しながら私なりに分析してみようと思う。

まず，日本の場合，学校を主体とした練習方法，試合方式のため，進級に従い指導者が交代し選手が迷いに落ち入るように思われる。世界各国はクラブチームを主体としているのでトレーナーが交代することはほとんどない。初心者から一流選手へと一緒になってトレーニングに励むので，選手もトレーナーもお互いに知りつくし，選手はのびのび練習が出来るようだ。トレーナーが代れば練習方法が変り，また練習環境その他に多くの問題が生じる。しかも女性の場合，20才を過ぎれば体力的な衰えも目立ちはじめ，一流選手の力を保つことはなかなか難しいと思われる。現在の体操はスピードと難度を重視しているので，どうしても16才前後の女性として最も体力のある時期に技を習得し，18才位で絶頂期を迎えることが望ましい。従って，このような重要な時期にトレーナーや練習環境が変れば，少なからず問題が生じることは当然である。もちろん，このような変化によって急速に進歩する選手もいるだろうが，しかしそれはほんの僅かな選手と思われる。

日本もスポーツクラブが発達してきたし，現に上位の若手選手にはクラブ出身者が多い。しかし，これから先も学校のクラブ活動に頼らなければならないと思う。なぜなら，日本体操協会（以下体協という）の組織が学校中心の試合や練習方式をとらざるを得ないと思われるからである。しかしスポーツクラブについても考慮し，徐々に改革する必要があると思うがどうだろうか。

さて，体協が学校のクラブ活動中心で進むことがやむを得ないことであるならば，体協はまず統一的な指導体制を確立することであろう。体協の指導者講習会等は，中央での開催が中心であるように思われる。しかしそれでは限られたトレーナーしか出席できず末端まではなかなかゆきわたらない。こうした講習会をなるべく各地区，各県で開催するようにすれば多くのトレーナーと接することができるし，素質のある選手をより多く発見できるはずである。各地区の国体予選や，県の選手権大会などの機会をとらえて，年2回位の講習会がもてないものだろうか。テーマとしては，新技の紹介，規定の問題点，補助方法，技術の段階的練習方法，補助器具の使い方などいろいろあると思われる。体

協直属のトレーナーが地方を廻り，現場の人達と討論を重ねることによって，中央と地方が直接結ばれることが大切であると思う。

1964年の東京オリンピックや，1966年のドルトムントの世界選手権までは女性の体操競技であった。しかし，1968年のメキシコ大会以後，あっというまに少女の体操競技となったのである。体協女子部はミュンヘン大会での惨敗後，いろいろ対策を練ってきたはずであるが今大会の結果からみて充分であったとは言い難い。目先だけの対策に追われることなく，長期的展望にたっての改善がなされない限り，2年後の世界選手権，4年後のオリンピックでも飛躍は望めないのではないだろうか。

次の問題は知名度の点である。つまり世界にどれだけ名前が知られているかということである。1968年のメキシコ大会以前，加藤沢男選手は世界の体操界では無名に等しかった。塚原監物両選手はもっと知られていなかったと思う。しかし当時の金子教育大教授は，日本に優秀な若手選手が育ったことを機会あるごとに紹介した。また，新しい技術の紹介も重ねて宣伝した。各国体操関係者はメキシコで日本の技術進歩に驚き，すばらしい選手が育ったことをまのあたりにした。

私は，このような外国に対する宣伝がより以上に効果をあげることを，西独に滞在してみて痛切に感ずるようになった。

それでは西独の例を挙げてみよう。西ドイツ体操連盟（D.T.P）は，月刊誌をはじめ数冊の体操雑誌を発行し，これらは外国にも送られ日本にも相当数の購読者がいる。その内容は，体操競技から一般的な体操まで幅広いものでありまた国内の試合結果や，国際試合の成績が必らず掲載されている。

1973年，フランスのグルノーブルで開かれたヨーロッパ選手権で，西独のギンガー選手が種目別の鉄棒で勝ったとき，これらの体操雑誌には毎回のように写真入りで紹介され，世界の体操関係者にその名を知られるところとなった。もちろん体操関係以外でも連日のようにマスコミに取り上げられ，それが絶好の宣伝効果をもたらしたこともある。彼は1975年，バルナーの世界選手権で，鉄棒の金メダルをさらってしまったのである。塚原選手の失敗があるとはいえ優勝にはちがいない。

また，西独の女子選手，アンドレ・ビーガー選手は，モントリオール大会で西側諸国最高の12位の成績をあげたが，彼女についても，体操雑誌は毎回の様に写真入りで宣伝に努めている。彼女の場合，ルーマニアのコマネチ選手の名があまりに大きすぎるため，今のところあまり効果をあげていないように思われるが，近く行なわれるプラハのヨーロッパ選手権の結果いかんでは面白い存在になりそうである。

現在，日本ではこのように外国へ向けて宣伝に努めているだろうか。私の購入している雑誌には各国の試合結果が毎回のように掲載され，その中には日本の国内試合の結果も含まれているが，優秀な若手選手の紹介記事などは見当らない。国内での知名度が高くても，世界の体操界からみれば無名に近い。各国体操協会に対し

て積極的に記事や写真を送り，より効果的な宣伝をする必要があると思う。例えば日本で行なわれる国際試合は絶好の宣伝の場であるから，これを充分に活用すべきだろうし，またより多くの国際試合に参加するよう考慮すべきである。ヨーロッパでは，年間日本の10倍近い試合が行なわれ，一流選手は５回以上の国際試合に参加している。ヨーロッパの人達は試合が大変好きなので，各国間の対抗戦など山ほど組まれている。ドイツ国内で15位まで入賞できれば，これらの試合に５回位は出場できるのである。また13才までの国際試合などもあり，一流選手ばかりでなく若手の活躍の場も多いのである。

ヨーロッパにおいては，毎週のようにどこかの国で国際試合が行なわれているといってもいいほどであり，選手はこれらの試合で成長し，またそれは前述のように，多くの宣伝効果をもたらすのである。

よく日本選手は「あがる」といわれる。外国選手とどこが違うのか考えてみたい。まず前述のように外国選手は一流になる以前から各種の国際試合を経験することがあげられる。これらの経験によって試合度胸が鍛えられると思われるからである。また，試合では徹底的に勝負にこだわる。負けることが大嫌いなので勝負に対する執念はものすごい。日本では，よく参加することに意義があるという言葉をつかうが，ヨーロッパでは競技に関する限り勝たねばならないという考えが徹底している。こうしたことが演技に対する集中心となってあらわれるのではないだろうか。

ヨーロッパと比較すれば，日本は地理的条件に恵まれていないことは確かである。しかし近年，国際試合は頻繁に開催されるようになったのであるから，できるだけ多くの試合に参加してほしいものである。体操界では技術面ばかりでなく，知名度が大きくものをいうことは周知の事実である。モントリオール大会で，日本の女子選手名が国際的にどれほど知られていたかは疑問である。国内で大騒ぎするような有望な若手がでてきても，各国関係者に知られなければ意味がない。名前を知らせるためにも，試合度胸を鍛えるためにも，国際試合への積極的参加が必要であると思う。チェコ，アメリカ，西独，日本は大体同じレベルにあると考えられる。1978年のパリでの世界選手権では，これらの国々によって５～８位争いが繰りひろげられるだろう。日本は充分その力を有していると確信する。

ところで，東欧諸国はスポーツに莫大なお金を使っている。そのひとつがコマネチの出現にみることができる。彼女は体操学校でトレーニングと勉強をしている。つまり「国家的アマチュア」である。彼女の練習方法は，今までのやり方と全く異なり，練習時間に合せて授業が組まれている。練習を何回にも分け，その合間に授業を行なう。中間で授業をやることによって気分転換にもなり休息にもなる。練習だけみてもいかに彼女が優遇されているかがわかるように一流選手育成のためには国をあげて援助するのが東欧諸国のやり方である。

日本の競技団体の場合は段々予算が削減され

むしろ一般市民のスポーツ関係に力がそゝがれつゝあるのではないだろうか。もちろんこのこと自体は大変望ましいことに違いないが，競技スポーツで世界一流の地位を保つためには金がかゝることも理解してもらう必要がある。国民は，オリンピックや世界選手権で負ければ，国民の税金を無駄使いしたと非難するが，これは競技スポーツに対する理解が浅いせいだと思う。一般市民のスポーツの上に競技スポーツというピラミッド型が望ましいのであって，底辺を広げるためにはより高い頂上が必要なのである。

この問題について西独の例をあげてみることにする。

西独では，内務省からスポーツ連盟（D.S.B）に，そして各競技団体に予算が流れる。また各州の競技団体は各州政府の内務省からという具合に，日本の場合とほゞ同様である。各地方団体は地方独自のトレーニングセンター（合宿所）をもっており，講習会や合宿が行なわれる。事務関係は専任の事務員があたり，日本のように各地方の先生方が仕事の合間に手弁当で仕事をしているのとは大変な違いである。日本も，トレーニングセンターは別としても，各競技団体が専任の事務員を各県にひとりぐらい設置できるならば大分違うと思う。

また西独では，一流選手に対して国民が援助する制度が定着している。一流選手がより多くの練習時間を必要とするのは当然であるが，そのため仕事を犠牲にし減収を余儀なくされる場合がある。このような一流選手を援助するために，ヨセフ・ネッカーマンという人が「Sporthilfe」（スポーツヒルフェ・選手援助団体）を作った。彼は現在，フランクフルトに本社をもつ通信販売会社の社長であるが，過去において，オリンピックの馬術で金２，銀２，銅２のメダルを獲得した名選手であった。ミュンヘンオリンピックを最後に引退したのだが，個人的に多額の寄付をし，1967年に「Sporthilfe」を組織し，スポーツ選手の援助を国民に訴えたのである。現在も会長として活躍している。

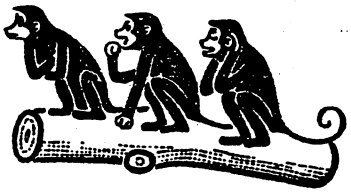
この「Sporthilfe」は，公の機関として個人，企業から寄付をうける。西独郵政省（Bundes-post）が「Sporthilfe」のために記念切手を販売したり，テレビのスポーツ放送を通じて一般市民の寄付を呼びかけたりする。オリンピックの年など多額の金を必要とするような時は宝くじや一流選手のサイン帳を販売したり，あるいは連邦大統領主催のスポーツパーティーなどを利用して金を集めたりする。

さて選手はどの程度金を受け取るのかということであるが，ランクなどによって様々のようである。ランクはA.B.Cの三段階に分かれており，Aがチャンピオンクラスで１ケ月約600マルク，Cクラスが国内で12位程度の選手で１ケ月約200マルク，Bはその中間ということになる。（１マルク約120円）これらの金は，１年間の試合結果を基準にして「Sporthilfe」が査定し，栄養費の名目で支払われている。

もし，この「Sporthilfe」がなかったならば西独の競技スポーツは大打撃を受けたに違いない。一流選手の多くが経済的理由などから早目に引退してしまうと考えられるからである。

西独スポーツ界にとって，この「Sporthilfe」の役割は大変重要であると言わなければならない。日本にもこのような援助団体ができ，国民がスポーツに対して理解と関心をもつようになることを祈りたい。そして，そうした援助に応えて日本の女子体操界から，世界の一流選手が誕生することを夢みている。

1977.4.20



競　技　会　成　績

第10回　東日本学生選手権

51.6.18～20　駒　沢

（男子）

団体総合	優勝		272.10
個人総合	3位	金居　俊郎	54.85
	4位	松本　俊一	54.50
種目別　床	1位	千田　修平	9.35
	3位	松本　俊一	9.05
あん馬	2位	松田　　洋	9.30
	4位	千田　修平	9.25
つり輪	1位	松本　俊一	9.25
	3位	千田　修平	9.10
	6位	金居　俊郎	8.95
	6位	慶田盛　定	8.95
跳　馬	2位	神田孝一郎	9.30
	2位	金居　俊郎	9.30
平行棒	2位	金居　俊郎	9.30
	3位	松本　俊一	9.25
	5位	境　　保則	9.20
	5位	藪野　睦明	9.20
鉄　棒	2位	松本　俊一	9.50

（女子）

団体総合	4位		174.50
個人総合	なし		
種目別　平均台	4位	山本富士子	9.10

第30回　全日本学生選手権

51.8.26～29　四日市市

（男子）

団体総合	2位		545.00
個人総合	4位	松本　俊一	110.05
	7位	金居　俊郎	109.85
	9位	千田　修平	109.55
	16位	境　　保則	107.05

（女子）

団体総合	4位		359.50
個人総合	2位	萩原美和子	74.05

種目別	床	1位	千田　修平	19.025
	あん馬	6位	金居　俊郎	17.475
	つり輪	6位	金居　俊郎	18.100
	平行棒	5位	金居　俊郎	18.000
	鉄　棒	4位	慶田盛　定	18.775

種目別	跳　馬	2位	磯部　育子	18.800
		3位	萩原美和子	18.775
		5位	小川美彌子	18.250
		6位	伊藤三千子	17.750
	平行棒	6位	萩原美和子	18.200
	床	4位	萩原美和子	18.225

第30回　全日本選手権

51.10.9～11　水戸市

（男子）

団体総合	4位		522.65
個人総合	17位	松本　俊一	105.75
	18位	金居　俊郎	105.70
	20位	千田　修平	105.55
	33位	瀬戸　伸一	102.25
	34位	山脇　恭二	102.10
種目別　床	1位	千田　修平	18.500
跳　馬	3位	松本　俊一	18.500
	5位	山脇　恭二	18.100

（女子）

団体総合	2位		360.00
個人総合	13位	内田　俊子	72.10
	17位	西沢真理子	71.80
	19位	伊藤三千子	71.75
	20位	坪田真由美	71.70
	23位	磯部　育子	71.50

関東学生新人戦

51.10.17　駒沢

（男子）

団体総合	2位		264.80
個人総合	1位	山脇　恭二	54.55
	4位	平田　倫敏	53.45
種目別　床	4位	山脇　恭二	9.40
	6位	松下　直人	9.30
	6位	仲内　尚志	9.30
	6位	関　信之	9.30
あん馬	4位	矢木　幹男	8.65

（女子）

団体総合	3位		175.20
個人総合	2位	磯部　育子	36.70
	6位	西沢真理子	36.00
種目別　跳　馬	2位	磯部　育子	9.60
	6位	西沢真理子	9.20
平行棒	6位	磯部　育子	9.30
床	2位	西沢真理子	9.25
	6位	磯部　育子	9.00

つり輪	1位	平田　倫敏	9.35
	4位	山脇　恭二	9.00
跳　馬	1位	山脇　恭二	9.50
	3位	中村　秀也	9.45
	5位	仲内　尚志	9.35
	6位	松永　二郎	9.30
平行棒	2位	平田　倫敏	9.35
	3位	松永　二郎	9.15
鉄　棒	2位	山脇　恭二	9.30

第 8 回　T B S 杯
対日体大定期戦

52. 4. 10　駒　沢

（男子）

団体総合		2位		322.225
種目別	床	2位	松本　俊一	9.30
		2位	山脇　恭二	9.30
	あん馬	1位	山脇　恭二	9.20
		2位	遠藤　孝之	9.15
		6位	境　保則	8.80
		6位	後閑　文昌	8.80
	つり輪	4位	松本　俊一	9.10
		6位	金居　俊郎	9.05
	跳　馬	1位	山脇　恭二	9.45
		3位	慶田盛　定	9.20
	平行棒	4位	後閑　文昌	9.15
		5位	金居　俊郎	9.10
		6位	藪野　睦明	8.95
	鉄　棒	1位	慶田盛　定	9.55
		5位	境　保則	9.25
		6位	後閑　文昌	9.20
		6位	平田　倫敏	9.20

（女子）

団体総合		1位		209.15
種目別	跳　馬	1位	今井久美子	9.20
		2位	坪田真由美	9.10
		4位	西沢真理子	9.00
		5位	鶴　鈴子	8.85
	平行棒	3位	鶴　鈴子	9.15
		4位	今井久美子	8.95
		5位	坪田真由美	8.85
	平均台	3位	西沢真理子	8.65
		3位	内田　俊子	8.65
		5位	萩原美和子	8.60
		6位	鶴　鈴子	8.55
	床	1位	西沢真理子	9.45
		3位	内田　俊子	9.15
		6位	高橋　亜子	8.85

アメリカ遠征について

男子コーチ　早　田　卓　次

今年の1月，アメリカのブリガハムヤング大学のヘッドコーチをしている佐野弘道氏（日体大出）の紹介により，本学体操部がアメリカの大学体操関係者の招待をうけ下記の通り転戦してまいりました。成績は団体，個人とも連戦連勝であり，アメリカ側の期待にじゅうぶん応えるものであったと思います。ここにその概要をご報告いたします。

試合日程

1.5	ユタ州	ブリガハムヤング大学
8	ワシントン州	ワシントン大学
9	オレゴン州	オレゴン大学
10	ニューメキシコ州	アルバクーキー大学
11	アリゾナ州	アリゾナ大学
12	〃	アリゾナ州立大学

期間　昭和52年1月4日～15日

遠征メンバー

部　長　浜田靖一

監　督　遠藤幸雄

コーチ　早田卓次，五十嵐久人，梶山広司

選　手　藪野睦明，松本俊一

金居俊郎，境　保則

慶田盛　定，瀬戸伸一

昭和50年度
会員総会議事録

文責　海　谷　美代子

日　時　昭和51年11月7日(日)　午後4時より

場　所　日本体育協会　301会議室

出席者（敬称略）

顧　問　後藤清一

第1回　石井征也，稲橋恒行

2　堀田淳二，芳尾　明，吉川　輝

4　菊地君男，木村多喜，早田卓次

6　鶴見興人

7　岩沢　稔，海谷美代子

9　朝倉徳雄

10　津村二郎

11　伊原　脩，網島路正，原　弘吉

13　過足重六

14　外山宜男

17　寛山秀成

以上20名　委任状109名分

オブザーバー　日本交通公社　柿沼健児

挨　拶　会長　稲橋恒行

議長及び書記選出

議長　吉川　輝

書記　海谷美代子

報告事項

1. 昭和50年度事業及び行事報告（本誌P.17参照）標記について鶴見総務より報告があった。

2. 昭和50年度決算報告（会報第13号P.18参照）標記について菊地総務より報告があった。

3. 会計監査報告

標記について堀田会計監査より，監査の結果相違ない旨報告があった。

4. そ　の　他

(1) 昭和51年度中間会計報告

標記について菊地総務より報告があった。

(2) 稲橋会長の社会人連盟理事長就任について

標記について稲橋会長より挨拶ならびに経過報告があった。

(3) 桜樹会ハワイ旅行について

標記について日本交通公社柿沼健児氏より説明があった。

協議事項

1. 会則改正

(1) 第7条会計監査は指名ではなく選挙としたい旨提案（提案者菊地）があったが，採決の結果，従来通りに決定した。

（理由）支出のほとんどが会報及び名簿の印刷代という現状では，幹事の相互協力による監査方法で問題はない。

(2) 内規第1条年会費を値上げしたい旨提案（提案者幹事会）があり，協議の結果，値上げはやむを得ぬこととし，具体的な額については幹事会に一任することに決定した。

2. 役員改選

選挙の結果次の通り決定した。

会　長　稲橋恒行（第1回卒）

副会長　石井征也（第1回卒）

堀田淳二（第2回卒）

3. その他

(1) 名簿の変更事項が多いので早期に改正版を出す。

(2) 新名簿には出身高校名を記載する。

(3) 名簿の発行は3年ごとにする。

(4) 桜樹クラブチームとして全日本選手権に参加できるよう努力する。

(5) 幹事会連絡網を作成する。

昭和50.51年度 事業及び行事報告

（総務）

会員総会の開期が変則になりましたので，昭和50年4月1日より昭和52年3月31日までの事業及び行事について報告いたします。

1. 会報の発行

第12号 50.6　第13号 51.5

2. 会員名簿の発行

50.6　51.5　52.2

3. 親睦会の開催

(1) 各種大会地における親睦会の開催

50.6　東日本インカレ　（弘前）

50.8　インターハイ　（東京）

（注，8月7日　会員総会及び懇親会）

50.8　インカレ　（東京）

50.10　全日本　（長野）

50.10　国体　（四日市）

51.6　東日本インカレ　（東京）

（注，6月20日オリンピック・モントリオール大会出場選手・役員壮行会）

51.8　インターハイ　（長野）

（注，本誌P.18参照）

51.8　インカレ　（四日市）

51.10　全日本　（水戸）

51.10　国体　（佐賀）

51.11.7 オリンピック 祝勝会（本会関係者）（東京）

(2) 忘年会

第12回　50.12.6　千葉・市川「鳥正」

第13回　51.12.4〜5　〃　・成田「成田ビューホテル」

(3) ゴルフコンペ

第13回　50.5.29　千葉国際カントリー

14　9.2　総成カントリー

15　51.6.1　千葉アサヒカントリー

16　9.3　高坂カントリー

17　11.11　総武カントリー

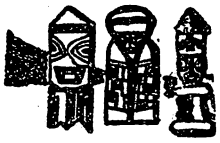
(4) 幹事会

50.3.10，50.6.25，50.8.7（総会）

51.4.28，51.9.10，51.11.7（総会）

(5) 桜樹会ハワイ旅行

51.9.10の幹事会で募集を決定し，交通公社を通じてダイレクトメールで募集を呼びかけた結果，最低催行人員15名に満たなかったため，52.1.22の幹事会で本年度実施を中止する旨決定した。



懇　親　会　報　告

51年長野インターハイにおける懇親会

北陸ブロック幹事
船木政明（第8回卒）

大変ご無沙汰しておりますが，皆様にはお元気で毎日をお過しのことと存じます。

長野インターハイも成功のうちに無事終了いたしまして，小生もやっと一息ついているところでございます。しかし間もなく国体予選等が始まり，忙がしい毎日が戻ってまいります。

さて本日は，例年通りインターハイの開期に合わせて行なわれた桜樹会懇親会の模様をご報告申し上げるべくペンを取った次第です。

懇親会は，規定第1日目の8月2日午後7時30分より，そばの美味しい「小菅亭」において多数の方の参加をえまして盛大なうちにもなごやかに行なわれました。

本大会では，桜樹会の諸先生方の努力が年々実りつつあり，勤務される学校名が男女ともにかなり上位に見られますことは，今後ますます楽しみなことではないかと思われます。小生も皆様に負けないよう指導に打ち込んでいきたいと思っております。

以上簡単ですがご報告といたします。尚，当日参加された方々は下記の通りです。遠藤監督はじめ，大学関係の方が，モントリオール帰国後で多忙なため，出席されなかったことは非常に残念でしたが，参加者一同大いに旧交をあたため，その実をあげ得たと思っております。

51. 8. 20　記

〔出席者〕　敬称略

第3回　米田賢一，三田　久
第5回　金子洋平
第7回　海谷美代子，苅込和男，中原　剛
第8回　大和孝三，小柴守夫，近藤盛一
　　橋口泰武，山内　悟，船木政明
第9回　伊藤寛美
第11回　松田　明，松重道子
第13回　椎名　昇，奥田早苗，中谷秀明
　　中村栄喜
第14回　青木文次，木村邦博，山崎雅昭
第15回　市毛美喜男，住広　晃，林　富久寿
第16回　荒井友雄，椎名　厚，西野晴久

以上28名

オリンピック出場選手役員壮行会

モントリオール大会に出場する本会関係者7名の壮行会が，51年6月20日，原宿の「南国酒家」で会員多数が集り盛大に行なわれました。出席者の中には遠く沖縄から駆けつけた赤嶺氏家族の姿もあり，選手・役員一同を大いに感激させました。

尚，選手・役員には，本会より記念品を贈呈

いたしました。

〔出席者〕（敬称略）

遠藤幸雄，早田卓次，木村多喜，五十嵐久人
梶山広司，山崎信恵，林田房美

稲橋恒行，石井征也，堀田淳二，吉川　輝
早乙女貞夫，上野　剛，菊地君男，小栗郁郎
鶴見興人，岩沢　稔，海谷美代子，中原　剛
岩田　惇，朝倉徳雄，伊藤寛美，津村多賀子
高橋正典，網島路正，原　弘吉，山本好隆
朝倉康雄，岡本みどり，塚田和茂，辻　誌朗
赤嶺芳弘，久保英雄，外山宜男，山崎雅昭
桜井洋子，高田ゆう子，中島　清，谷田部光則
柄沢康弘，小谷幸子，杉村久子，鈴木良之
寺元良人，錦井利臣，平島宗子，寛山秀成
前山真一郎

※出席者以外の次の方々からお祝いを戴きました。厚くお礼申し上げます。

金子洋平，仲西盛光，椎名　昇，野原秀安
㈱津留美

オリンピック祝勝会

本会関係者によるオリンピック5連勝を祝う会が，51年11月7日，総会の開期に合せて，壮行会と所も同じ「南国酒家」で行なわれました。

会場には，叙勲（勲三等旭日中綬章）のため上京された顧問の後藤清一氏（三洋電機副社長）もお見えになり，会は二重の喜びに湧き立ちました。また，函館の中島元氏からは，この日のために名産の"いかとっくり"が届けられ，一層雰囲気を盛り上げてくれました。

〔出席者〕（敬称略）

遠藤幸雄，早田卓次，木村多喜，五十嵐久人
梶山広司，山崎信恵，林田房美

後藤清一，門脇春男，石井征也，稲橋恒行
堀田淳二，芳尾　明，吉川　輝，上野　剛
菊地君男，志賀正昌，小栗郁郎，鶴見興人
岩沢　稔，海谷美代子，中原　剛，岩田　惇
朝倉徳雄，津村二郎，伊原　脩，網島路正
原　弘吉，岡本みどり，過足重六，久保英雄
外山宜男，山崎雅昭，中島　孝，杉村久子
鈴木良之，錦井利臣，林田房美，平島宗子
寺元良人，寛山秀成，宮本敏子，前山真一郎

ゴルフコンペ成績

第 15 回　　51.6.1　　千葉アサヒカントリー

Name	東	南	西	Gross	Hdcp	Net	Rank
門脇	58	48	50	156	24	132	8
稲橋	52	46	49	147	24	123	3
鶴見	64	51	63	178	33	145	11
早乙女	83	66	64	213	54	159	12
山中	48	46	39	133	1.5	131.5	7
角田※	53	51	44	148	22.5	125.5	4
高田(哲)※	57	54	56	167	27	140	10
菊地	49	43	44	136	18	118	2
高田(信)	45	42	51	138	9	129	6
上宮田※	42	38	37	117	6	111	1
小野※	58	51	49	158	25.5	132.5	9

※印　会員外参加者

優勝　菊地

準優勝　上宮田（初参加のため）

第3位　稲橋

B.G　上宮田

B.B　鶴見

D.C　稲橋，山中，小野

N.P　門脇，菊地，山中

第 16 回　　51.9.3　　高坂カントリー

Name	Out	In	Out	Gross	Hdcp	Net	Rank
菊　地	47	44	44	135	13.5	121.5	5
阿　部	43	47	49	139	13.5	125.5	8
高　橋※	44	53	48	145	27	118	4
岩　田	57	76	52	185	54	131	12
山　中	38	37	38	113	1.5	111.5	1
吉　川	51	52	52	155	22.5	132.5	13
門　脇	52	63	56	171	24	147	16
相　場※	55	58	55	168	33	135	14
高　田	43	45	46	134	9	125	7
角　田※	45	48	42	135	22.5	112.5	2
高　石※	47	50	43	140	24	116	3
福　田※	54	53	48	155	33	122	6
上宮田※	45	48	40	133	3	130	11
稲　橋	51	49	47	147	21	126	9
早　田	61	53	49	163	24	139	15
鶴　見	51	52	56	159	33	126	10

優　勝　山　中
準優勝　角　田※
第3位　高　石※

B.G　山　中
B.B　早　田
D.C　山　中，高　田
N.P　山　中，高　石

第 17 回　　51.11.11　　総武カントリー

Name	中	北	南	Gross	Hdcp	Net	Rank
山　中	44	39	40	123	0	123	8
津　村	44	49	44	127	13.5	123.5	9
網　島	62	57	50	169	54	115	5
高　石※	52	43	43	138	21	117	6
福　田※	51	49	47	147	33	114	4
石　井	66	57	62	185	42	143	14
菊　地	42	39	40	121	13.5	107.5	1
朝　倉	56	51	56	163	39	124	10
山　本	50	48	48	146	36	110	2
稲　橋	50	46	56	152	21	131	12
早　田	59	53	50	162	24	138	13
高　田	46	46	45	137	9	128	11
井　上	51	51	55	157	45	112	3
工藤(昌)	59	49	47	155	36	119	7

優　勝　　菊　地

準優勝　　山　本

第3位　　井　上

B．G（0.5ラウンドごと1回のみ受賞）

中コース　菊　地

北　〃　山　中

南　〃　高　石※

B．B　　早　田

D．C　　稲橋，山中，高石※

N．P　　山中，山本，高田，津村

大波賞　　石井

小波賞　　福田※

とび賞　　5位　網島　　10位　朝倉

ラッキーセブン賞　　工藤

日付賞　　高田

昭和51年度 決 算 報 告

（昭和52年4月25日の幹事会に報告）

収 入 の 部

項　目	金　額	備　考
繰越金	240,816	
会費	232,000	過年度分34,000　51年度分17,600　52年度以降分22,000
雑収入	37,229	懇親会余剰金23,526　預金利息3,703　寄付金10,000
合計	510,045	

支 出 の 部

項　目	金　額	備　考
補助費	84,900	オリンピック出場選手・役員記念品代39,300 全日本出場選手補助34,000　その他壮行会補助等
会議費	7,480	幹事会室代等
通信費	133,890	会報13号，51年度版名簿送料57,300 52年度版名簿送料45,090　その他切手代等
印刷費	270,850	会報13号81,200　51年度版名簿44,100 52年度版名簿123,750　その他通知書等
事務費	8,030	封筒，原稿用紙，その他事務用品代等
雑費	3,390	口座手数料.
次年度繰越金	1,505	
合計	510,045	

昭和51年度収支決算を以上の通り報告いたします。

昭和51年3月31日

日本大学桜樹会総務　菊地君男

鶴見興人

監査の結果，相違なきことを確認する。

昭和51年3月31日

日本大学桜樹会会計監査　堀田淳二

芳尾　明

※昭和51年度会員総会が開催されておりませんので，会計年度3月31日を以って決算報告いたしました。

（総務）

昭和52年度　体操部役員

部　長　浜田靖一
副部長　門脇春男
監　督　遠藤幸雄
コーチ　早田卓次，木村多喜，五十嵐久人
　　梶山広司，上野　剛，海谷美代子

男子主将	藪野　睦明	（文・4）
副将	境　保則	（　〃　）
女子主将	伊藤三千子	（　〃　）
男子主務	中村　秀二	（　〃　）
女子主務	吉野こずえ	（文・3）
学　連	高橋　和秀	（文・4）
	西村久美子	（　〃　）
	山崎　常雄	（文・3）
	中村　恭子	（　〃　）
	大村　広之	（文・2）
	相沢　潔美	（　〃　）

抱　　負

体操部主将　藪　野　睦　明

間もなく行なわれる東日本インカレ，そしてインカレに向かって毎日の練習を大切にしたいと思っています。

体操競技は個人競技であると同時に団体競技でもあるわけですから，私達チーム全員がひとつの輪となって団体優勝を目標にがんばっていきたいと思います。私達が1.2年の時，先輩達の努力で東日本インカレとインカレに優勝した瞬間の感激がいまも脳裏にやきついています。あの感激を是が非でも自分達の手でつかみたいと思っています。

昭和52年度　桜樹会役員

会　長	稲橋　恒行	
副会長	石井　征也	堀田　淳二
幹事長	吉川　輝	
総　務	菊地　君男	鶴見　興人
会計監査	芳尾　明	小松　武雄
幹　事	平川　文雄	上野　剛
	高田　信興	早田　卓次
	木村　多喜	小栗　郁郎
	海谷美代子	朝倉　徳雄
	津村　二郎	原　弘吉
	五十嵐久人	外山　宜男
	寛山　秀成	宮本　敏子

ブロック幹事

（北海道）	中島　元	（東北）	宇野正信
（関　東）	苅込和男	（東海）	辻岡　寛
（北　陸）	船木政明	（近畿）	小柴守夫
（中　国）	常井晴道	（四国）	山崎智彦
（九　州）	堀田敏明		

昭和52年度 体操部新入部員（52.5.4現在）

（男子）

氏　名	出身県	出身高校
国井　信行	茨　城	日大土浦高
藤井　幸信	千　葉	日大土浦高
柴沼　篤博	東　京	日大明誠高
栗原　博人	福　岡	柳川商業高
納谷　雄二	神奈川	相工大付高
蛭間比呂志	埼　玉	足利学園高
柳井　　実	大　分	佐伯鶴城高
吉田　清一	群　馬	高崎工業高
安冨　　寿	香　川	坂出工業高
小路　　健	東　京	独　協　高

（女子）

氏　名	出身県	出身高校
高橋　亜子	岐　阜	中京商業高
中村理恵子	京　都	和歌山北高
二木喜代美	北海道	東海大第四高
由永　知子	鳥　取	境　高　校
渡辺　幸子	山　形	山形城北女子高
河合三枝子	山　形	山形城北女子高
友久　加代	徳　島	徳島商業高

入　部　し　て

匿名女子新入部員

私達が体操部に入部して早や一カ月が過ぎ去ろうとしております。

この一カ月の間に，大学生活の環境にも慣れ体操部員としてのある程度の自覚もできたように思います。インカレでの上位入賞を目指すためには，生活面のきびしさから始めなければならないと思います。

この栄光ある日本大学体操部に入部したことを誇りに思い，これからもがんばっていきたいと思っております。

会費領収について

総　務

昭和51年度（51. 4. 1～52. 3. 31）中に領収した会費の納入者氏名及び金額。

（本誌P.23 決算報告・収入の部・会費の項参照）

51.4/28	稲橋恒行	2,000	6/26	高橋房雄	2,000
〃	稗田房子	4,000	6/28	岡本みどり	2,000
5/ 1	朝倉徳雄	2,000	6/29	斉藤敬一	2,000
6/16	近藤明	2,000	〃	戸沢滋	2,000
〃	松本恭子	2,000	〃	椎名厚	2,000
〃	辻誌朗	2,000	〃	波多野伸	2,000
6/17	春山文子	2,000	6/30	伊藤勇	2,000
〃	鈴木康夫	2,000	〃	鈴木聖子	2,000
6/18	平野文世	2,000	7/ 1	芳尾明	2,000
6/19	武田和子	2,000	〃	船木政明	2,000
〃	綱島路正	2,000	〃	浅田泰男	2,000
〃	菅野秀俊	2,000	〃	千野良一	2,000
〃	山本好隆	2,000	7/ 2	佐藤勲	2,000
6/20	山内悟	2,000	7/ 3	松田明	2,000
6/22	西原由美子	2,000	〃	安田和明	4,000
〃	渡辺和子	2,000	7/ 5	村上吉正	2,000
〃	川野耕二	2,000	〃	過足重六	2,000
〃	工藤昌二	2,000	〃	小栗郁郎	2,000
6/23	中谷秀明	2,000	〃	金子洋平	2,000
6/24	森山理	2,000	〃	原弘吉	2,000
6/25	松岡範孝	2,000	〃	土屋史郎	2,000
〃	小俣里知子	2,000	〃	谷田部光則	2,000
〃	宮本美恵子	2,000	〃	山崎雅昭	2,000
6/26	安藤泰行	2,000	7/ 9	金子正史	2,000

7/ 9	奥田早苗	5,000
〃	外山宜男	2,000
7/10	塚田和茂	2,000
7/12	白土弘士	2,000
〃	池田一正	2,000
〃	宇野正信	2,000
7/16	福田久恵	2,000
〃	藤田幸男	4,000
〃	山田隆士	2,000
7/19	吉田義則	4,000
7/21	高波司雄	2,000
7/23	保坂弘一	2,000
7/27	田野　哲	2,000
7/29	岡本公子	2,000
8/ 2	工藤道弘	2,000
8/12	桃井明男	2,000
〃	人見省吾	5,000
8/19	小柴守夫	2,000
9/ 7	伊原　脩	5,000
9/10	上野　剛	2,000
〃	早川尚夫	2,000
〃	小松武雄	4,000
〃	鶴見興人	2,000
〃	堀田淳二	2,000
〃	石井征也	2,000
〃	海谷美代子	2,000
〃	三木和一郎	20,000
〃	高田信興	2,000
〃	五十嵐久人	2,000
9/18	島崎康行	2,000
10/12	金子　剛	2,000
10/26	酒井博行	2,000
10/27	舟山忠広	3,000
11/ 1	大野登利光	10,000
11/ 4	荒井千文	6,000
11/ 7	志賀正昌	2,000
11/13	今西悦子	2,000
11/14	菊地君男	2,000
12/11	青木文次	2,000
12/29	千葉本子	2,000
52.1/ 8	岩沢　稔	2,000
2/ 8	谷田部光則	2,000
3/10	岩田　惇	2,000
	合　計	232,000円

昭和52年4月1日より5月10日現在までの納入状況は次の通りです。皆様の協力により，本年度の納入状況は大変好調のように思われますが，それでも全会員数に対する納入者数の割合は，役40%に過ぎません。未納の方はなるべく早目に納入されるようお願いいたします。

（注，領収月日が4月1日以前のものであっても，会計年度・昭和52年度の収入として取扱った分については「4月1日領収」としてあります。）

52.4/1	橋口幸弘	2,000
〃	池田勝吉	2,000
〃	平田芳和	2,000
〃	内田民雄	2,000
〃	加藤英夫	2,000

4／1	千田修平	2,000	4／1	近藤　明	3,000
〃	平良　洋	2,000	〃	武田和子	3,000
〃	松田　洋	2,000	〃	志賀正昌	4,000
〃	村上秀宜	2,000	〃	松本恭子	3,000
〃	米須　進	2,000	〃	山崎忠男	3,000
〃	湯原清介	2,000	〃	前山真一郎	2,000
〃	小貫孝春	2,000	〃	海谷美代子	4,000
〃	佐藤之俊	2,000	〃	千葉　勉	2,000
〃	皆川哲道	2,000	〃	小柴守夫	4,000
〃	和田利一	2,000	〃	石井悦夫	3,000
〃	田島清貴	2,000	〃	小松武雄	4,000
〃	鈴木正雄	2,000	4／2	朝倉徳雄	2,000
〃	久保田一行	2,000	4／3	岡田洋二	2,000
〃	大友栄紀	2,000	〃	宇野正信	3,000
〃	保坂恵津子	2,000	〃	椎名　厚	2,000
〃	小川美彌子	2,000	〃	伊東恭一	10,000
〃	小田武子	2,000	4／5	西原由美子	3,000
〃	門脇　文	2,000	〃	原　弘吉	3,000
〃	斉藤知子	2,000	4／6	中谷秀明	3,000
〃	鈴木智加子	2,000	〃	今西悦子	3,000
〃	石塚弘子	2,000	〃	梶山広司	2,000
〃	富松由三子	2,000	〃	松山禎一	2,000
〃	三原加津子	2,000	4／7	山本好隆	3,000
〃	矢野万喜子	2,000	〃	吉川　輝	5,000
〃	山本厚子	2,000	4／8	宇佐美典久	3,000
〃	黒崎淑行	2,000	〃	山田隆士	3,000
（以上52年度新入会員）			〃	山宮トミエ	2,000
4／1	伊原　脩	3,000	〃	影山真一	4,000
〃	桃井明男	3,000	〃	松田　明	3,000
〃	平野文世	3,000	4／10	箱根　修	3,000
〃	青木文次	2,000	〃	網島路正	3,000

4/11	伊藤　勇	4,000	4/25	木村多喜	4,000
4/14	過足重六	3,000	〃	上野　剛	4,000
〃	福田久恵	2,000	〃	小栗郁郎	4,000
〃	村上吉正	2,000	〃	外山宜男	2,000
4/16	菅野秀俊	3,000	〃	中島　孝	2,000
〃	高波司雄	3,000	4/26	菊地君男	4,000
〃	渡辺和子	2,000	4/27	安藤泰行	3,000
4/18	伊谷正一	3,000	4/29	寛山秀成	2,000
〃	工藤昌二	3,000	5/ 6	藤田幸男	4,000
4/19	椎名　昇	3,000	〃	葛井克政	3,000
4/20	大津卓也	2,000	5/ 7	芳尾　明	5,000
4/24	金子洋平	4,000	5/ 9	梅本文子	3,000
〃	関　辰男	2,000	5/10	稲橋恒行	5,000
4/25	石井征也	5,000	〃	早田卓次	4,000

会員名簿訂正・追加

52 5.10

第4回高橋　房雄　(勤)県立西仙北高校　(電)削除

〃　藤田　幸男　(勤)石橋町立石橋中学校

(電)02855-3-0139

第5回小松　武雄　(住)352 新座市新座北野 2-7-8

(電)0484-77-5163

第8回大和　孝三　(住)036 弘前市桜ケ丘 2-12-13

(電)訂正なし

〃　影山　真一　(住)781 安芸市寿町 6-10

〃　小柴　守夫　(自宅・電)078-792-5137

(出身校)市立葺合高

※葺合高校は市立でしたので同校出身者については県立を市立に訂正して下さい。

第10回井上　博　(住)削除(転居先不明)

〃　宇津　豊　(勤)島根県立体育館　(電)削除

〃　中村　瑞穂　(住)削除(転居先不明)

〃　桃井　明男　(勤)東京山手YMCA

(電)03-202-0321(代)

(出身校)国学院高

第11回伊谷　正一　(勤)仙台営業所・削除(電)削除

(住)030-01青森市横内字神田 2-9 木浪方

〃　伊原　脩　(住)練馬区大泉学園町 155 学園荘 115

〃　宇野　正信　(自宅・電)0236-42-8699

〃　大原　健司　(勤)ブラジルにて体操指導

(住)Rua Gama Lobo 1148

Apt2 1PRANGA Sao

Panlo Brasil

〃　里中　昌子　(住)削除(転居先不明)

第12回伊東　恭一　(住)015 本荘市出戸町字小人町22-2

第12回平野　文世　(自宅・電)0482-96-4226

〃　山崎　忠男　(住)615 京都市西京区御陵溝浦町5-1

〃　谷　誠二　(住)削除(転居先不明)

〃　三田　裕　(住)・(電)・(出身校)牧川明生の項にあり

第13回荒井　千文　(住)350-02 埼玉県入間郡鶴ケ島町大字太田ケ谷979

(電)0492-85-9664

〃　菅野　秀俊　(勤)校成学園女子高校

(電)03-300-2351

〃　辻　誌朗　(住)削除(転居先不明)

〃　中村　栄喜　(住)016 能代市盤若町 2-24

〃　山村　英子　(勤)削除

(住)738 広島県佐伯郡廿日市町下平良 214-2

〃　五十嵐久人　(自宅・電)03-302-5135

第14回田中　章二　(住)削除(転居先不明)

〃　村上　吉正　(住)020 盛岡市川目 14-139-11 みどり荘

第15回関　辰男　(勤)友栄塗装㈱結城工場

(電)02963-2-6515

第16回種本　茂之　(住)削除(転居先不明)

〃　長谷川義和　(住)〃(　〃　)

〃　矢野　龍治　(住)〃(　〃　)

第17回石毛　英三　(勤)自宅

(自宅・電)04785-2-9800

〃　梶山　広司　(住)世田谷区赤堤 4-31-9 かつら荘8号

(電)03-325-3620

〃　酒井　清　(勤)信州営業所

(電)02665-8-2371

(住)392 諏訪市四賀字赤沼 1550 東邦織物㈱信州営業所内

第17回千葉　勉　(住)秋保町湯元字青木
以下同じ

〃　増子　良行　(勤)東京アスレチッククラブ
(電)03-384-2131
(住)160 新宿区北新宿3-27-20
第二旭荘

〃　市川　晴久　(勤)サービス業 03-325-1554
(住)156 世田谷区松原3-33-2
東荘5号
(電)03-321-5063
(出身校)　盈進高

〃　須賀　京子　(勤)スポーツ文化振興協会
(電)03-980-5787
(住)330 大宮市別所町 74-5
(電)0486-65-7951
(出身校)　県立春日部女子高

〃　丹野　優子　(住)156 世田谷区経堂 1-18-6
コーポノセロ202
(出身校)　県立白石女子高

第18回池田　勝吉　(勤)スポーツ文化振興協会
(電)03-916-5115
(住)187 小平市上水本町1531
-34
(電)0423-23-7029

〃　内田　民雄　(住)174 板橋区若木 1-8-3
(電)03-934-9305

〃　大友　栄紀　(住)168 杉並区下高井戸
2-21-20　益子アパート3号

〃　小川美彌子　(勤)県立足利西高校
(電)0284-62-2456
(住)326-03　足利市下渋垂町
386
(電)0284-71-2351

〃　門脇　文　(勤)私立米子商業高校
(電)0859-27-0421
(住)689-44　鳥取県日野郡
江府町江尾2064
(電)085975-2053

第18回黒崎　淑行　(住)235 横浜市磯子区岡村
1-4-6
(電)045-752-0456

〃　久保田一行　(勤)立川市立第五小学校
(電)0425-23-5238
(住)194 町田市森野4-11-35
(電)0427-22-1288

〃　小貫　孝春　(勤)大宮市立栄小学校
(電)0486-23-0775
(住)330 大宮市三橋 6-464
伊藤荘
(電)0486-24-4768

〃　鈴木智加子　(勤)日大桜ケ丘高校
(電)03-304-4301
(住)180-04　清瀬市旭が丘
2-1-5.501
(電)0424-91-8053

〃　田島　清貴　(勤)河合楽器製作所
(電)0534-54-2131
(住)866 熊本県八代市古閑
中町 401
(電)09653-3-8145

〃　橋口　幸弘　(勤)ヨーケン社
(電)0423-94-7580
(住)156 世田谷区赤堤
5-26-13
(電)03-321-0480

〃　平田　芳和　(住)657 神戸市灘区鶴甲
4-3-17-105
(電)078-851-4403

〃　松田　洋　(勤)松田商店(自営)
(電)0222-71-9831
(住)983 宮城県泉市南光台
4-11-35
(電)0222-71-9831

〃　三原加津子　(勤)日大豊山女子高校
(電)03-934-2341
(住)156 世田谷区松原
1-58-9　那倉方

(電)03-328-5072

第18回矢野万喜子　(勤)私立共栄学園

(電)03-601-7136

(住)133 江戸川区北小岩
8-23-3 楓荘

〃　山本　厚子　(勤)日大明誠高校

(電)055462-5161

(住)409-01　山梨県北都留郡
上野原町上野原 482
三愛荘1-1

第12回武田　昇　(勤)八王子市立第四中学校

第14回久保　英雄　(住)削除　(転居先不明)

第8回角　佐久良　(住)〃　(　〃　)

第15回福田　久恵　(氏名)佐藤久恵(旧姓福田)

(勤)削除

(住)961 白河市手代町 58

(電)02482-2-0502

(住)156 世田谷区赤堤
5-14-16ヴィーバー3号

(P. 43 へ続く)

総　務　よ　り

先日新名簿送付の際にお知らせしましたように，名簿は3年ごとに発行されることになりましたので，その間会報の本欄を参考にしながら大切にご使用戴きたいと思います。

ところで，新名簿発行からまだ間もないというのに，今回門脇師の祝賀パーティーの通知を出したところ連日の様に転居先不明のスタンプがおされたはがきが戻ってきました。その数すでに14通に達しました。夜逃げならいざ知らず自分の転居先ぐらいは連絡してほしいものです。3月から5月にかけては転勤・転居のシーズンかもしれませんが，桜樹会員たることを希望するならばぜひご一報戴きたいと願っています。(会員であることが煩わしい方は会長宛，退会する旨連絡して下さい。)

新入会員の場合も，入会申込書が届かない限り住所がわかりませんので連絡のしようもありません。現在31名のうち16名しかわかっておりません。ご存知の方は本人に連絡のうえ，早急に入会申込書を送付するようお伝え下さい。

みんなでこの会を育てゝいくという認識をもってもらいたいと切に願っている次第です。

西ドイツのスポーツ(1)
スポーツクラブ

今村　悟

西ドイツのスポーツについてまとめてみようと思っても，非常に大きな組織と団体に分かれなかなか困難なことである。西独スポーツ連盟州スポーツ連盟，各競技団体，各州競技団体などと続く組織はとてつもなく大きい。例えば体操連盟だけをみても，日本の様に競技専門だけでなく，青少年スポーツ（スポーツ・ユーゲント），子供の体操部，男子の体操部，女性の体操部，老人の体操部，トランポリン部，体操競技部など28部門に分かれており，またそれが州地方，郡，地域，そしてスポーツクラブと続くのである。

今回はスポーツクラブについて報告し，次回に，スポーツ連盟，体操連盟について報告しよう。

各競技団体に登録されているスポーツクラブは，1975年現在44,373で，登録人数は1261万人である。

これを競技団体別にみると

①サッカー（Fußball）350万人，②体操（Turnen）269万人．③射撃（Schützen）86万人，④陸上（Leiehtathletik verband）66万人，⑤テニス（Tennis）65万人⑥水泳（Schmimmen）55万人，⑦ハンドボール（Handball）52万人，⑧卓球（Tisch-Tennis）46万人，⑨乗馬（Reiten）32万人⑩スキー（Ski）31万人

以上が上位10団体である。尚，スポーツ連盟（Deutsche Sport Bund）に登録されている団体は47で，その中には，ビリヤードやチェスなど，日本ではスポーツとして扱われるかどうか微妙な団体もある。ヨーロッパではこうした競技もスポーツとよんでいるのである。

以上のことを前提としてスポーツクラブを見てみよう。

各都市・町・村には必らずスポーツクラブが存在する。それらは，会員数が五千人を越えるクラブから百人に満たないクラブまでいろいろある。一番大きいクラブは，南ドイツのウルム市にある「SSVウルム1846」で，会員数は1万人以上であり，2番目は「F.Cバイエルン・ミュンヘン」の7500人が続いている。各クラブは創設時に名称をつけるので，例えば「SSVウルム1846」は，スポーツ・水泳・クラブ・ウルムで1846は創立年を示している。私のクラブは，「TuSマイナーツハーゲン1877」であるが，体操（Turnen）と（und）スポーツ（Sport）クラブ・マイナーツハーゲンという意味で1877年の創設である。このように各スポーツクラブの名称をみれば何クラブであるかがわかるわけである。しかし，クラブの実施種目が必らずしも，創設時だけのものとは限らない。例えば「F.Cバイエルン・ミュンヘン」は

有名な世界一のサッカークラブで，ベッケンバウアーやミュラーという大選手を有しており，名称もF.C (Fuβball Club) ということは，サッカー・クラブとしてスタートしたことを意味しているが，現在ではサッカー以外の種目も設置され優秀な選手を輩出している。

大都市には何百というクラブがあり，小さな村でも最低ふたつ以上のクラブがある。私の住んでいるマイナーツハーゲンは，人口1万8000人の小さな市であるが，20近いクラブが存在する。

これらのクラブは一応独立採算制でありひとつの企業として扱われる。しかし小さな村の場合は会員数が少なく企業としては非常に苦しい状態にある。クラブは会費を徴収するが，高いクラブも安いクラブもある。大体月に32マルクから8マルク位であり，家族全員が入会すれば割引くところが多い。

クラブは企業と同じであると書いたが，それは次のことを意味しており，日本と根本的に違う点であろうと思う。

もし，クラブの会長がそのクラブを強くし，利益があがるようにしようという方針であればまず良いトレーナーを呼びチームを強化していく。国内でトップクラスのチームになれば試合の時の観客が多くなり収入もふえてクラブの収益があがる。

わかり易くサッカーの例をあげてみよう。（最近私はサッカー狂になりつつあり，サッカーの例ばかり出して恐縮だが）

サッカーは，一部リーグが18チームあり，二部は北20チーム，南20チーム，計40チームある。その下にいくつの部があるのか見当もつかないほど膨大なチームが存在する。その中で，もし一部リーグに入れば，年間，前期17回，後期17回計34回のリーグ戦を行なう。それぞれ年間2回対戦しホームゲームとビジターゲームがある。もちろんホームゲームはクラブの収入となる。従ってそのチームが強ければ観客も多く，収益があがり優秀な選手をトレードで引き抜くこともできる。不成績であれば当然経営は苦しくなり，トレーナーが交代させられたりする。一部の場合，下位3チームが二部に転落する。

さて，そのシーズン上位入賞を果せば，次のシーズンのヨーロッパクラブ対抗戦の出場権を得る。その場合もリーグ戦同様，ホームとビジターで行なわれ，ホームゲームはクラブの収入となる。各クラブの目標は，このヨーロッパ間の対抗戦に出場することにある。

その他の国内の試合としては，ドイツカップ（Pokal）があり，三部位までのチームがトーナメント方式で争う。また多くの親善試合もあり，優秀なチームはいろいろなクラブや外国から招待され，それらもクラブの重要な収入源になっている。

以上述べたことはサッカーに限らずほとんどすべての団体に当てはまることである。サッカー以外では，アイスホッケー，ハンドボール，バスケットなどが盛んであり，多くの観客を集めている。アイスホッケーはカナダ，アメリカバスケットはアメリカ，サッカーはスェーデンユーゴスラヴィアなど各国の優秀選手を引き抜

いている。体操の場合も，一部リーグ，州リーグ，地方リーグなどに分かれて試合を行なっており，日本選手も出場している。

これらの選手はサッカーを除いてすべてアマチュアである。サッカーの場合でも，二部クラスの選手になれば収入も少ないので，他に仕事を持っているものが多い。また逆に，一部リーグに属している一流選手でも，自分自身でアマチュアであると宣言すればオリンピックにも出場することができる。つまりアマかプロかというのは選手自身の問題というのがヨーロッパの解釈なのである。これはサッカー以外の種目，（自転車・スキーなど）でも同様である。しかし西ドイツに限らずヨーロッパのアマチュア選手は，そのほとんどがクラブから金銭的報酬を受けているのが実状である。

また会社および公共団体はスポーツクラブに若干の寄付をしている。大会社になればクラブを設置している場合もあるが非常にまれである。会社勤めの選手が仕事第一に考えるのは当然であるが，一流選手となればより多くのトレーニング時間が必要である。しかしもし午後からトレーニングするとなれば会社は午後の給料を差し引く。このような場合，栄養費の名目で「選手援助団体」から補助金が支給される。（注，「選手援助団体」については別稿「日本女子体操界の低迷に思う」の中で説明した）

話が大分横道にそれてしまったが，クラブ内の組織についてみてみよう。

クラブには会長，副会長，総務，会計がおり年次総会で選挙される。その下にトレーナー（指導者）がいて各部門（各種目）に分かれている。会長以下会計までは名誉職であり金銭的報酬がないのが普通だが，大きなクラブでは，専門の事務員や会計を願っている場合もある。トレーナーは給料を支給されるが，学歴によって相当なひらきがあって，一般には次の三段階に分かれている。まず大学卒スポーツトレーナー（Diplom-Sportlehrer），次に1年間の国立スポーツ学校卒業者又は国家試験にパスしたトレーナー（Sportlehrer）．そして最後に各州主催の指導者講習会（期間は約1週間）で試験にパスしたトレーナー（Übungsleiter）の3つである。大学卒トレーナーとスポーツトレーナーは学校のスポーツ教師として働けるので，ほとんどのトレーナーは午前は学校，午後スポーツクラブの2つの職場をもっている。3番目のウーブング・スライターは，午後または夜にトレーナーとなるが，スポーツトレーナーと違い専門の種目だけしか指導を許されない。体操の免許ならば体操だけということである。このウーブングスライターは大部分女性であって，午前中主婦業，午後トレーナーというのが一般的である。

指導者の質を日本の場合と比較してみると，競技によってまちまちのようである。サッカーハンドボール，陸上，馬術などは日本より大分高いと思われるが，体操（男子），バレーボール，バスケット，卓球などのレベルはかなり低く，昔ながらのトレーニング法が行なわれているようである。全体的にみて日本の指導者（体育教師も含めて）の方が優秀のように思われる。

もっとも日本の場合，全員が大学卒なので当然の結果かもしれない。

次に施設であるが，大きなクラブは専用の体育館を有している場合もあるが．大部分のクラブは市町村の施設を借りる。市町村の施設，つまり学校施設は，午前中で授業を終り午後からスポーツクラブに開放される。クラブの責任者は市町村役所のスポーツ課に時間割を提出し，スポーツ課ではそれらを調整して時間割を編成し公表する。小さな町や村でも最低2つの体育館をもっている。各施設には必らず管理人がいて．器具，用具の管理にあたる。トレーニングは午後2時から3時頃に始まり，60分から90分が普通である。午後5時位までは子供が主であり，夕刻から夜にかけて大人の時間帯となる。体育館は夜の10時まで使用でき，もちろんシャワーも自由に使うことができる。一般の子供や大人は一回を基準にしているが，試合を目的とする場合は週2～3回の練習をする。週5回のトレーニングは一流選手以外考えられない。

クラブの体育館は，小さな酒場（スナック）を必らずといっていゝほど持っている。トレーニングの後，スポーツ仲間と雑談したり，ゲームをしたり，酒をのんだりして，夜の11時頃まで陽気に騒ぐ。公共の体育館の場合は近くのスナックがたまり場になる。一週に一度，そんな風にして過すことをみんなが楽しみにしている。

クラブへの入会は随時できる，会費さえ払えばすぐに会員となれる。大体一年単位で会費を支払うが，ほとんど銀行の自動振込みを利用しているようである。

前号にも書いたが，クラブに入会している人達は極く一部であり，もし大都会などで大挙して入会するようなことがあれば，政府は第二次ゴールデン計画を作製しなければならないだろうと思われる。

クラブ間ではそのランクごとに試合が行なわれ，試合日は，土曜，日曜である。試合には，人数によって自家用車とか貸切りバスで出かける。ちょっとしたクラブなら大体マイクロバスを持っており，これで選手の輸送にあたる。非常に試合が多いのでその方がずっと安上りである。

クラブはいろいろな催しを行なう。2月のカーニバル，12月のクリスマス発表会などは年中行事になっている。また．クラブ会員以外でも自由に参加できる催しもたくさんある。例えば年1回クラブ主催のお祭りを開き．昼は子供達のためにゲームをしたり食事をしたりして楽しむ。夜はダンスパーティーが開かれるが．これにはプロのバンドが呼ばれて，夜中の2時，3時まで繰り広げられる。これらの収入もクラブのものとなる。その他，土・日曜日を利用してWanderung（散歩）大会を開催する。（散歩などと生易しいものではないが，適当な訳語がないので散歩とした）これは約20～30キロ歩くのであるが．ドイツ国内にはいたる所にそのコースが設けられている。このような大会も参加費は1マルクから2マルク程度のもので，誰でも参加できる。

以上のようにクラブはいろいろな催しを行なって，市民と密着したクラブになるよう努めて

いるし，経営のことも考慮されている。

クラブの経営上，一番出費が多いのはやはりトレーナーに支払われる給料である。会費だけでは苦しく小さなクラブは相当に苦労している。そこでこのようなクラブに対しては，州政府が多額の援助をしている。私事で恐縮だが．私のクラブを例にとれば1時間の給料12マルクのうち，6マルクが州政府，残り6マルクをクラブで払っている。このような援助は州政府にとってもかなりの負担であるが，市民の理解があり問題にされるようなことはない。スポーツクラブは年々増加の傾向にあり，会員数も伸びている。

以上スポーツクラブをみてきたわけであるがこちらに滞在していて感じることは，スポーツクラブと公共団体がすばらしい関係をつくり出しているということである。また，市民はスポーツに関心をもち，スポーツを通じて自分の身体，健康をコントロールしており，それが実に自然に行なわれていることである。日本人は，とかく流行に振りまわされるように思われる。いま日本は，マラソンブームと聞いている。しかし，ブームに踊らされるのではなく，自分に適したスポーツを見い出し，それを自分なりに消化できるようにしたいと思う。スポーツクラブも利益だけを追求するのではなく，市民と密着したものであってほしいと思っている。

参考資料

ドイツ体操連盟年監 1975／76
(Jahrbuch des Turner Bund)

ドイツスポーツ連盟年間 1975／76
(Jahrbuch des Sport)

ドイツ体操(Deustsch Turnen)

ヨーロッパの会員のことなど

菊　地　君　男（第4回卒）

昨年夏，はからずも大学から海外研修を命ぜられ．ヨーロッパ8ケ国を歴訪する機会に恵まれた。初めての海外旅行であり，見るもの，聞くことすべてにただ驚嘆，驚異の有様で，その心境たるや「東方見聞録」を著わしたマルコポーロもかくやと思われるほどのものであった。旅行中に犯した失敗も一度ならず，謂ゆる診談奇談に類する話題にこと欠かないのであるが，こゝではヨーロッパに在住するふたりの会員との再会などを中心に書いてみたいと思う。

今回の旅行は，同僚のS氏とともに，交通公社のルック・ヨーロッパルート22に参加し，途中1週間ほど別行動をとったのであるが，ツアーの人員は26名で全国から様々な人達が集っていた。

7月14日羽田を発ち．南廻りでアテネからヨーロッパに入り，アテネ・ローマを見物して，7月18日午後，南欧の太陽が照りつけるマドリード空港に到着した。空港には人見君（人見省吾．第10回卒，マドリード在住）が出迎えてくれた。うっかりするとスペイン人と見間違うほど，すっかり同化してしまった感じだ。数年前彼が帰国した折に会ったような記憶もあるが，それにしても実に久しぶりの再会である。彼とは，八幡山の合宿所が発足した当時，1年ほど一緒に過したことがあるが，あの頃彼はまだ1年生であり，紅顔の美少年（？）だった。その彼がいま．スペインのナショナルチームのコーチをしているのであるから，まさに隔世の感というべきだろう。

マドリードには2日間の滞在だったが，すっかり世話になってしまった。

彼の車（フィアット）で名所旧跡を案内してもらったばかりでなく，競馬場に出向いて馬券を買ったり（戦果はなし。やはり日本語の通じない馬が相手では勝手が違った），夜遅く下町の横丁に立並ぶパブをはしごしたり，おしきせの団体旅行では到底経験できないようなことを見聞することができた。闘牛の迫力や，中世都市トレドの景観や，ベラスケスやグレコの絵画など，強烈な印象をうけたものはたくさんあるが彼や，彼の家族と過した僅かな時間の方がマドリードの印象となっている。

人見君は，かつてマドリードで行なわれたヨーロッパ選手権で，鞍馬の神様といわれたユーゴのツェラールを押えて個人総合で優勝したことがある。当時彼はスペインの英雄だった。（これはオーバーな表現ではない。プロスポーツは自転車とボクシングとゴルフぐらいで，アマスポーツも過去に金メダルは水泳とスキーのアルペンでひとつずつということを考えると彼の活躍は市民を，国民を，熱狂させたに違いない）。

その実績のある彼も，現在ナショナルチーム

のコーチとして，ソ連から来ている年老いたコーチと意見が合わずに苦労していると嘆いていた。また．強烈な南欧の太陽の下では，日本のような1日3～4時間の練習など到底不可能であり，国民性からして猛練習にはついてこないし，しかも徴兵制度があるため，苦労して育てた選手もこれからという時に兵隊に取られてしまうとも話していた。日本のコーチとは異質の悩みも抱えているようだった。

夕刻，ホテルに戻る途中で彼がコーチをしている連中に会った。彼等は何やら興奮気味に早口のスペイン語でまくしたてていた。あとで聞くと，オリンピックでの日本選手の得点が，ソ連選手と比べて低すぎることを憤慨していたのだった。ちょうどその日．モントリオールでは男子の規定が行なわれた日であった。

スペイン人の中にひとりでも多く，日本や日本人のことを理解してくれる人間が増えることも，彼の大きな功績ではないかと思うのだが。

彼の家は新築の高層マンションの一階にあった。新興住宅地らしく，すぐ近くで地下鉄の工事をしていた。邦貨で二千万円位で購入したとのことだが，ゆったりしたスペースと（どうゆうわけか浴室がふたつあった），豪華な調度品は，団地サイズのわが家とは比較にならないほど立派なものだった。目もくらむような外の暑さに比べて，室内は驚くほど涼しく，もちろん冷房装置など必要ない。湿度が極端に低いからだろうが，大陸の夏は日本のジメジメした夏からは想像できないほど快適である。

奥さんは大変な美人だ。英文科の出なのにスペイン語を学びたくて単身マドリードにやって来たことが彼との出会いになったらしい。

結婚3年，一人娘の玲奈ちゃん（2才）がかわいい。

スペインは，行きずりの旅行者にとっては実にすばらしい国のように思えた。輝く太陽，うまい料理，安い物価など良いことばかりが目についた。しかし，彼のように7年間も住んでいればいろいろな苦労があるのは当然だろう。ある意味で無気力な，またすべてに大陸的な国民性に伍して，彼の持ち味を失うことなく活躍してほしいものである。

郊外のレストランでワインを傾けながら，彼はこんなことをポツリと漏らした。

「現状に満足さえしていれば，これほど住み易い所はないですよ」と。

単身スペインに渡り，協会の組織づくりから選手強化の対策など，何度も壁にぶち当りながら努力してきた彼が，その努力のむなしさを知って漏らしたことばと考えるのは思い過ごしだろうか。いまも妙に心に残っている。

とにかく，好漢人見君の今後の活躍を祈ろう。

7月20日午前11時30分，マドリード空港をあとに，ロンドンに向け離陸した。

空港に人見君が見送りに来てくれた。その時彼から千ペセタ（約5千円）の会費を受けとったが，桜樹会も国際的になったものである。長年総務をやっていて，外貨での会費は初めてである。

この日も，南欧の空はあくまで青く澄み，灼熱の太陽が滑走路に照り映えていた。

ロンドンからは列車でドーヴァーに出て，フェリーでフランスに渡った。パリでの3日間はワインにどっぷり漬かって過ごした。

パリでの最後の夜，西ドイツの今村君（今村悟，第9回卒，西独在住）に電話した。スイスのローザンヌで落ち合う打合せのためである。初めての国際電話の経験はいわゆる診談の類であろうか。恥を忍んでご披露しよう。

まずホテルの部屋から交換手を呼んだ。鼻にかゝったフランス語がとびこんできた。すっかりあせってしまって，「キャン・ユー・スピークイングリッシュ？」とやってしまった。「ヤー」ときた。今度は英語である。フランス人の英語などわかるわけがない。（これは言い訳け）とにかく何かしゃべらないことには……まゝよと叫んだ。「ウェスト・ジャーマニイ・エンケンバッハ・テレフォンナンバー・ゼロ・シックススリー・ゼロ……」ややあってから「ジャスト・モーメント」。通じたのかどうか緊張の時が過ぎて突然女性の声で，戦争映画で聞き慣れたドイツ語が聞えてきた。またまたあせる場面である。相手の会話は無視して，「マイ・ネーム・イズ・キミオ・キクチ，ミスター・サトルイマムラ，サトル・イマムラ…」。神に祈りたい心境というのはオーバーだが，送話器の沈黙がやけに長く感じられたあと，ついに聞き覚えのある今村君のはずんだ声がとびこんできたのである。

英語でもフランス語でも．ちょっとした会話さえ理解できるならば何んのことはないのだろうが，同室のS氏とふたりで，数字の零を英語で言い表わすのに．ロケット打上げの秒読みを思い出し，ゼロが間違いなく英語であると確認するに至っては何をか言わんやである。しかしとにかく，パリから西ドイツの片田舎にあるエンケンバッハに声は送られたのである。その夜は興奮気味で羽田から持参したサントリーの杯を重ねた。（お蔭で翌日はひどい二日酔に悩まされることになった）

7月25日午前．パリからTEE（国際特急）チサルピンでスイスのローザンヌに向かった。一等なのでゆったりしていて内装もすばらしい。国鉄のグリーン車にさえ数えるほどしか乗ったことのない私にとってはぜいたくな経験だった。

午後5時頃ローザンヌ駅に到着した。ホームには今村君夫妻が出迎えてくれていた。ドイツからこゝまで，国境を越えて二日がかりで来てくれたのである。

今村君は．大学卒業後，私が勤める理工学部に4年半ほど勤務していた。だから，体操部の後輩というばかりでなく，元同僚としてもつき合いが深い。もちろん同行のS氏とも共に働いた仲間である。1昨年夏，帰国して結婚式を挙げた奥さん（大宮市出身）とも面識があった。ふたりは揃いのジーンズを着こなし，新婚ムードがいっぱいという感じだった。

ツァーの連中とは駅前で別れて，S氏とともに彼の車（オペル）に乗り込み，その後約一週間彼の案内でスイス・ドイツを廻った。

1日目はレマン湖のほとりを走りシオンの安宿に泊った。フランス語圏なので彼もかなり苦

労しての宿探しだった。

2日目はツェルマットから登山電車でアルプスに登ったが，目当てのマッターホーンは霧の中にあって見ることはできなかった。三千メートル以上ある頂上駅には小雪が舞っていた。夜はインターラーケン近くのひなびたホテルに部屋をとった。
屋根裏部屋からのアルプスと湖の眺めがすばらしかった。

3日目はラウターブルンネンから登山電車でユングフラウを目指した。途中のアイガー北壁にすっかり度肝を抜かれ，頂上の万年雪の白さと，雄大な氷河の眺めに酔った。

宿はルッツエルン郊外にとった。階下のレストランには，農良仕事をおえた農夫が集ってきてカードに興じていた。牛のにおいのする小さなホテルだった。

4日目，いよいよドイツに入った。アウトバーンが果てしなく続く。アウトバーンに入って彼と運転を交代した。この日のために国際免許をもっていったのだが，いざとなると緊張するものである。左ハンドル，右側通行，どちらも初体験だった。ハンドルを持つ手がベトベトになるほど握りしめて2時間近く走った。

その日はドイツの片田舎にあるエンケンバッハのミュラー家に泊った。彼がドイツに来て以来，いろいろ世話になっている家とのことだった。ご主人は訪日中で留守だったが，みごとな体格の奥さんが陽気に出迎えてくれた。われわれが着いて間もなく，日本の高校生がひとりでやって来た。1週間ほど滞在するという。よほどの親日家なのだろう。今村君夫妻も，まるでわが家といった感じて振舞っていた。

5日目午後，ミュラー家を辞して彼の住むマイナーツハーゲンに向かう。途中，ハイデルベルグの古城や，ローレライの岩などをみながらライン川に添って走った。時折交代する運転にも大分慣れた。

午後8時ごろ，マイナーツハーゲンに到着した。落ち着いた田舎町の印象だった。彼の部屋は最上階の四階にあった。2DKなのだろうが全体のスペースは3DKのわが家よりかなり広い感じがした。彼は，ふたりでは広過ぎるのでもっと狭い所を探している，などと妙なことを言っていた。（事実彼は最近引越したので，望み通り狭い所が見つかったのだろう）

さて，無事到着したことを祝ってビールとドイツの焼酎（シナプス）で乾杯し，そろそろ寝ようかという段になって一騒動だった。何しろベッドは彼等の分しかないのである。床にじかに寝るわけにもいかない。われわれが行くことになった時から彼の工夫が始ったのである。まず，ふたつあるベッドの一方のマットをはずす。応接用のソファーをバラバラに解体する。それらをパズルのように組み合せてどうにかふたつの寝床ができあがった。その組合せ方が彼の苦心のしどころだったらしい。彼は，この日までこんな作業を何度となく繰り返したに違いない。そんな彼の姿を考えると胸が熱くなる思いだった。

6日目はのんびり過した。彼の勤める学校を見学したり，冬にはスキー場になるという牧場

にも行ってみた。彼の部屋からも広々した牧場が見渡せ，町全体がすばらしい自然環境に恵まれていた。車で10分ほどのところにある湖は，コバルトブルーの水面に原生林の影を落してひっそりと静まりかえっていた。

午後はアウトバーンを1時間ほど走りケルンに出かけた。今までに多くの体操関係者が留学している所なので，その名は何度も耳にしていた。デパートの家庭用品売場で土産を買った。

7日目も終日のんびり過し，夕刻，ブラブラ歩いて丘の上のキャラバンを見物に行った。マイナーツハーゲンの町は．この日祭りだった。キャラバンはそのためにやって来た移動遊園地という感じのものだった。メリーゴーランドや射的など，かなり時代がかったものだったが，娯楽施設のほとんどないこの町の人達にとっては，すばらしいメルヘンの世界のようだった。

8日目は別れの日である。カレンダーは8月1日になっていた。

この日，昼ごろケルンに出た。切符を買ってもらい，アムステルダム行の準急に乗せてもらった。ケルンからアムステルダムまで，言葉のわからないふたりが国境を越えて旅した。それはまさに彌次喜多だったのだがここでは省略する。とにかくアムステルダムのホテルで，ツァーの連中と無事合流できたのである。

今村君夫妻と過ごした8日間の概略を．日を追って書いてみた。彼の車で気ままに走り，安宿の屋根裏部に泊ったり，ドイツの家庭料理を味わったり，パズルのベッドに寝てドイツ風の日本食（今村夫人手作りの）を食べたり，彼のお蔭でユニークな旅行ではあった。

今村君は，私の職場に居た当時もバイタリティーのかたまりみたいな男だったが，ドイツに来てもその意気いささかも衰えず，といった感じがした。午前は学校の体育教師として，午後それもかなり遅くまでスポーツクラブのトレーナーとしてがんばっている。結婚して，生活も一段と充実しているように思える。関白の彼とかわいらしい（と言っては失礼かもしれないが）つゝましやかな奥さんとの呼吸はぴったりのように見受けられた。

（最近の便りで．今年の11月二世誕生予定ということを知った。海外での出産であり，何かと大変なことだろうが，元気な二世が誕生するよう祈りたい。）

ケルンのホームで見送ってくれたふたりの姿が．少し淋し気にみえたのは気のせいだったのだろうか。われわれと過していて望郷の念が起ったのでなければいいのだが……。

一度帰国すればふたりで百万円位かゝってしまう。一生懸命働いて貯金しても，結局何んのために働いているのかわからなくなるといっていたが，確かにそう度々帰るわけにはいかないだろう。その意味で日本は実に遠い。

とりとめのないことですっかり長くなってしまったが．私の旅はその後，コペンハーゲンから北廻りで帰国の途につき，8月4日午後4時無事羽田に帰り着くことによって終結したのである。

今回の旅行を通じて，ヨーロッパの歴史や文化を直接見聞し得たことは，勿論貴重な経験ではあったが，それと同じぐらい，あるいはそれ以上のすばらしい体験が，人見君や今村君との再会にあったように思う。たとえ国内であっても大会の時など再会した仲間との語らいはとても楽しいものだが，異国でのその感情は増幅されるものらしい。

桜樹会の財産はこうした人間関係にあると思う。人間の出会いが，運命なのか遇然なのか論ずるつもりはないが，われわれはみな，過去のある時期まちがいなく日大体操部に籍を置いたのである。長い人生のうちでは一瞬に過ぎないような交わりが，実は大変貴重なのではないだろうか。

間もなく夏がやってくる。焼けつくようなマドリードの日射しや．ひなびたビヤホールで飲んだドイツのビールの味を想うこの頃である。

1977. 5.　記

会員名簿訂正・追加

（P. 32より続く）

※ 52. 5. 10以降にわかったもの

第3回三田　久　(勤)県立能代工業高校
(電)01855-2-4148

第5回波多野　伸　(勤・電)0493-34-3111
(自宅・電)0493-34-4871

第6回真島　孝礼　(勤)県立中央高校
(電)0552-26-4411
(住)400-01 山梨県中巨摩郡敷島町牛句2350-66
(電)05527-7-5782

第7回諸岡　嘉春　(住)493 愛知県葉栗郡木曽川町里小牧往還北14

第9回梅野　克身　(住)950 新潟市小金町106 職員宿舎115

〃　森　重樹　(勤)平和設備㈱
(電)093-621-4708
(住)〒806

〃　横山　邦子　(住)633 西宮市松並町4-2-B-303

第11回網島　路正　(住)187 小平市学園西町1633 コーポ吉野201号
(電)023-43-1425

第12回鴨下　哲夫　(住)182 調布市国領町5-35-11

〃　佐藤　均　(住)016 能代市末広町16-2

〃　松岡　範孝　(住)787 中村市不破1392-11

第17回大貫　正　(住)350-02 埼玉県坂戸市薬師町1638

第18回保坂恵津子　(勤)川崎市東橘中学校
(電)044-766-1649
(住)222 横浜市港北区大曽根町885
(電)045-541-7252
(勤)横浜市立城郷中学校

〃　石塚　弘子　(電)045-471-8416
(住)222 横浜市港北区鳥山町406
(電)045-471-6138

〃　佐藤　之俊　(勤)㈱東京相互銀行人事第二部
(電)03-986-1111
(住)156 世田谷区赤堤5-15-6 第二いとう荘5号
(電)03-325-3589

編　集　後　記

先日出勤途中のカーラジオで面白いことを聞いたので書いてみよう。

都立大の教授（工科系の大変有名な教授なのだが森某としか思い出せない）の話なのだが，その教授が今度新しく講座を開設した。（その講座名もどうしでも思い出せないのだが要するに頭を柔軟にさせるための講座ということだった。）

例えば．10円玉を四角といったら誰でも変に思う。ところが丸いというのは平面図のことであってそれでは一面的である。物体を表わすには立面図も当然必要である。そこで10円玉の立面図を書くとこれはまぎれもなく長方形，即ち四角なのである。

もうひとつの話は，氷がとけたら何になるかという質問に対して，工科系の学生はみな水になると答えた。ところがひとりだけ文科系の学生がいて，その学生は氷がとけたら春になると答えたという。

このふたつの話は，一時流行した頭の体操やなぞかけの類とも思えるが，その教授も語っているように発想の転換と考えたい。頭が柔軟でなければ発想の転換はあり得ない。

氷がとけたら春になる．というのは非常に詩的で楽しい発想だと思う。

話は飛躍するが．今回も浜田先生のご寄稿で巻頭を飾ることができたが，いつもこのことながら浜田先生の文章はいかにも柔軟な頭脳から生み出され，ユニークな発想があると思う。いま手元に，先生の著作である"体操1理論編"（新しい体操への出発点）という本があるが，随所に発想の転換があり，読みもの（こんなことをいっては失礼になるかもしれないが）としても大変楽しいものである。

われわれは，年令とともに身体の柔軟性を失っていくのは避けられないとしても，せめて頭の柔軟性だけは失いたくないものである。

1977.5　菊地